

神戸市内からのツマベニヒメナガカメムシの記録

吉田浩史

ツマベニヒメナガカメムシは、2018年に関東地方で確認された外来種のカメムシの一種である(中谷ら, 2019)。その後、翌2019年には関東地方の広範囲に広がっていたとされる(中谷ら, 2019; 伴, 2019)。

関東地方以外ではネット上でわずかな記録がみられるのみであり、少なくとも兵庫県からは初記録と思われるため、ここに報告する。

関東地方において急速に分布を拡大したこと、寄主植物としてアカバナ科のマツヨイグサ類をはじめ13科に及ぶ幅広い種が記録されていること(中谷ら, 2019)から、今後兵庫県を含む近畿地方でも各地で確認される可能性があり、注目が必要と考えられる。

半翅目 マダラナガカメムシ科

ツマベニヒメナガカメムシ *Neortholomus scolopax* (Say, 1831)

1♀(図), 神戸市須磨区一ノ谷町, 須磨海岸, 0m, 13. XI. 2020, 吉田浩史採集。



図 ツマベニヒメナガカメムシ(筆者撮影)。

長島聖大氏には本種の分布情報を、宮内博至氏、山添寛治氏には文献情報をご教示頂いた。ここに厚くお礼申し上げます。

参考・引用文献

伴光哲, 2019. ナガカメムシ研究を巡る近年の話題—分類および生態を中心に。生物の科学 遺伝, 73(4): 361-367.

中谷至伸・友国雅章・野澤雅美・奥田恭介・相馬純, 2019. 関東地方で2018年に発見された北米原産のナガカメムシ *Neortholomus scolopax*. *Rostraria*, (63): 87-90.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市)

兵庫県のキュウシュウクチブトカメムシの古い記録について

宇野宏樹

キュウシュウクチブトカメムシは本州・四国・九州・対馬・トカラ列島(平島)・奄美大島に分布するカメムシである(石川・高井・安永, 2012)。兵庫県における本種の生息状況については、占部(2010)が神戸市須磨区での本種の採集例を「これまでに記録がないと思われる兵庫県で採集したので報告する」として報告しているが、正確にはこれは兵庫県初記録ではなく、1994年出版の「宝塚の昆虫 VII」で宝塚市における本種の記録が報告されている。筆者は本文献を古書店で購入したが、現在はほとんど入手不可能であると思われるのでここに記録を引用しておきたい。なお、県内における本種の記録は少なく、占部氏の報告が貴重なデータであることには変わりはない。

宝塚市香合新田. 1ex, 10. III. 1990; 2exs, 14.IV. 1991. 小田中健採集。

宝塚市玉瀬. 1ex, 14. II. 1993. 小田中健採集。

なお、玉瀬の記録については、原文献には「玉瀬」と表記されているが、おそらくミスタイプであろうことから、修正している。未筆ながら、本報告の執筆を勧めてくださった中峰空博士に厚くお礼申し上げます。

○引用文献

石川忠・高井幹夫・安永智秀, 2012. 日本原色カメムシ図鑑第3巻. 全国農村教育協会。

占部智史, 2010. 兵庫県神戸市でキュウシュウクチブトカメムシを採集。きべりはむし, 32(2): 41.

宝塚市教育委員会, 1994. 宝塚の昆虫 VII ハチ・アリ・ノミ・(補遺)。

(Hiroki UNO 京都大学大学院農学研究科)

姫路市夢前町菅生川のトゲナベブタムシの記録

石田真載・石田哲哉

トゲナベブタムシ (*Aphelocheirus nawai*) はカメムシ目ナベブタムシ科の昆虫で環境省レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、兵庫県レッドデータブックではAランクとされている。近年、生息地が激減しており、その



図1 トゲナベバタムシ (*Aphelocheirus nawai*) 2020年6月21日.



図2 生息環境.

数は全国で9ヶ所あまりしか知られていない。

本種は2010年に兵庫県立飾西高等学校自然科学部のメンバーにより、夢前川水系の農業用水路での生息が確認され、平成28年、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）500」の「No.338 夢前川右岸の水路」として認定された。兵庫県では、武庫川水系と夢前川水系で計3箇所の生息地が報告されている。

これらの報告に続くものとして、同じ夢前川水系の菅生川にて新たに1個体を確認したので報告する。2020年6月21日の午後5時頃、姫路市夢前町菅生川の菅生川本流にてトンボ目の幼虫（ヤゴ）の確認のため網を入れたところ、本種を確認した（図1）。

本種の生息地は、同様に絶滅危惧種であるモートナイトトンボ、アオサナエなどの希少なトンボ目の生息地でもあり（図2）、近年は農業用水の流入による富栄養化やネオニコチノイド系農薬の影響も懸念される。

○参考文献

石田直人・吉安 裕, 2004. 近畿地方におけるナベバタムシ属2種（半翅目：ナベバタムシ科）の生活環ならびにそれらの発育と生息環境. 昆虫（ニューシリーズ）, 7(2) : 55-68.

中島 淳, 林 成多, 石田和男, 北野 忠, 吉富 博之, 2020. 日本の水生昆虫. 文一総合出版

(Makoto ISHIDA 姫路市立城北小学校5年)

(Akikoto ISHIDA NPO法人こどもとむしの会)

神戸市東灘区における2020年のクマゼミの初鳴および終鳴の記録

吉田浩史

2020年はコロナ禍の影響により、個人的に遠出をして昆虫調査を行うことが困難な状況であった。このため筆者は、仕事場への通勤や子供の送迎等の際に目撃した昆虫類を記録することにした。ただしセミ類については、過年度より記録を行っていたが、2020年夏に特筆すべきと思われる記録があったため、ここに報告する。

場所は神戸市南東部の東灘区魚崎南町で、神戸市南東部の海に近い埋立地である。筆者は家庭の事情により、2020年春から週に数回程度、同地に通うこととなった（このため、2019年以前のセミの鳴き声等の記録はない）。市街地であるが、瀬戸公園をはじめ浜公園、内浜公園等の都市公園が複数あり、街路樹も多い。このため、都市部に多くみられるクマゼミの生息には適した環境であると言える。

クマゼミ

神戸市東灘区魚崎南町, 標高約2m.

初鳴

2020年6月9日、町内の街路樹上で1個体の鳴き声を聞いた。例年よりもかなり早い初鳴記録であったため、録音を流している可能性も疑ったが、生体は確認できなかったものの、声の聞こえてくる場所から本物のセミの声と判断した。

その後しばらく、悪天候と筆者の都合により同地での確認ができなかったが、6月20日に瀬戸公園のグラウンド周辺で2個体が鳴いているのを確認した。6月23日にもほぼ同じ場所で1個体が鳴いていた。

それを受け、主に東灘区と灘区の南部で調査を行ったが、クマゼミの声は聞けなかった。魚崎南町以外での筆者が聞いた初鳴記録は、1カ月以上遅れて7月15日に須磨区須磨浦通で聞いたものであった。

兵庫県を中心としたセミの記録に付いては近藤伸一氏らにより取りまとめられている（近藤・永井, 2019; 他）。これによると、例年のクマゼミの初鳴は6月下旬ごろであり、5月の記録はなく奈良県からの2016年6月10日の報告が最も早い記録であった（近藤・永井, 2017）。

終鳴

筆者の近年の経験によると、クマゼミの終鳴は神戸市の市街地では8月20日から25日ごろであり、山地ではそれよりもやや遅れるという印象であった。

2020年はそれよりもやや遅く、8月27日に東灘区